

# 南工場の建替えについて

## 1 焼却工場の整備方針

- (1) 本市では、現在稼働している4箇所の焼却工場（中工場、南工場、安佐南工場、安佐北工場）について、ごみの収集・運搬における適切なエリア分担とコスト削減の観点から集約化を図ることとしており、稼働開始後、今年度で28年目を迎えた安佐北工場を平成30年度末をもって廃止し、平成31年度以降は、3工場体制とする計画である。
- (2) 3工場体制を持続的なものとするためには、焼却炉等の老朽化が進行している南工場（焼却炉等については平成25年度から平成28年度にかけて改修工事を実施済みであり、平成40年代初頭に耐用期限を迎える）を建替える必要がある。

現在の焼却工場の配置



名称	所在地	稼働時期	処理能力
中工場	中区南吉島	① 平成16年4月	600t/日 (200t×3炉)
南工場	南区東雲	② 昭和63年6月	300t/日 (150t×2炉)
安佐南工場	安佐南区伴北	③ 平成25年4月	400t/日 (200t×2炉)
安佐北工場	安佐北区可部町	④ 平成 2年4月	200t/日 (100t×2炉)

## 2 南工場の建替計画

### (1) 建替時期及び手順

南工場については、平成40年度の稼働開始を目指し、建替えを進めることとし、平成30年度以降、基本計画の策定や環境影響評価を実施し、平成35年度から現在の南工場を解体・撤去し、その跡地に新工場を建設（現地建替）する計画である。

## (2) 焼却能力の設定

### ① 焼却ごみ排出量の将来推計

本市が平成27年3月に策定したごみ処理基本計画（計画期間は平成36年度までの減量施策の反映や、人口変動<sup>(注)</sup>を踏まえ、将来の焼却ごみ排出量を推計したところ、南工場の建替えが必要となる平成40年代初頭における1日当たり排出量は、約800tとなる見込みである。

区分	実績		推計														
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	
1日当たり排出量(t/日)	832	822	823	817	827	822	817	811	804	800	800	800	800	800	800	800	800

(注) 人口変動は、本市が平成28年3月に策定した「世界に誇れる『まち』広島人口ビジョン」により推計した。

区分	実績		推計													
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42
人口(万人)	119.1	119.3	119.0	119.1	119.3	119.4	119.5	119.6	119.7	119.7	119.7	119.8	119.7	119.7	119.7	119.7

### ② 南工場に求められる焼却能力

建替後の南工場の焼却能力については、長期的で安定した焼却体制が維持できるように、焼却ごみ排出量の将来推計（約800t/日）を基に、次の観点を踏まえて検討した結果、現工場と同規模の300t/日とした。

- ア 中工場及び安佐南工場の焼却能力（合計1,000t/日）
- イ 災害発生や突発的要因による稼働停止などへのリスク対応（中工場又は安佐南工場の焼却炉1炉（200t/日）が、1年間停止した場合でも対応可能）
- ウ 焼却工場の定期的な点検・補修等のために必要な一定の休炉期間（年間96日）を踏まえた焼却体制（年間稼働日数269日÷365日＝73.6%）

[新南工場の焼却能力を300t/日とした場合の本市の1日当たり焼却能力]  
 $((1,000\text{t/日}^{\text{ア}} + \text{新南工場}300\text{t/日}) - 200\text{t/日}^{\text{イ}}) \times 73.6\%^{\text{ウ}} = 809.6\text{t/日} > 800\text{t/日}$

## 3 南工場の建替期間中の措置

南工場の解体・撤去が始まる平成35年度以降は、中工場と安佐南工場をフル稼働しても、市域で排出される可燃ごみの全量を焼却できなくなるため、一旦廃止した安佐北工場2炉のうち1炉（100t/日）を、排ガス処理設備等を改修したうえで再稼働（新南工場の建設工事が完了する平成39年度末までの5年間）する計画である。

## 4 事業スケジュール（予定）

